

景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

新車販売や家電販売等が好調に推移

～消費税増税後の反動減を懸念～

【概況】3月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが18.8%（前月調査23.8%）、「悪化」が25.0%（同27.5%）で、業界全体のDI値は-6.2となり、前月調査と比較して2.5ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-12.5となり、前月調査と比較して-12.5ポイント下回った。非製造業全体のDI値は-2.1となり、前月調査と比較して4.2ポイント上回った。

県内の景況は、消費税増税前の駆け込み需要により、新車販売や家電販売等が引き続き好調であったほか、商業卸や運輸業も好調に推移した。

しかし、今般の需要は一時的な動きであり、一部の業界からは、消費税増税前の駆け込み需要が落ち着いたという報告もある等、経営環境の変化や駆け込み需要の反動減が見込まれることから、今後、景気の動向を注視していく必要がある。

(回答数：80名 回答率：100%)

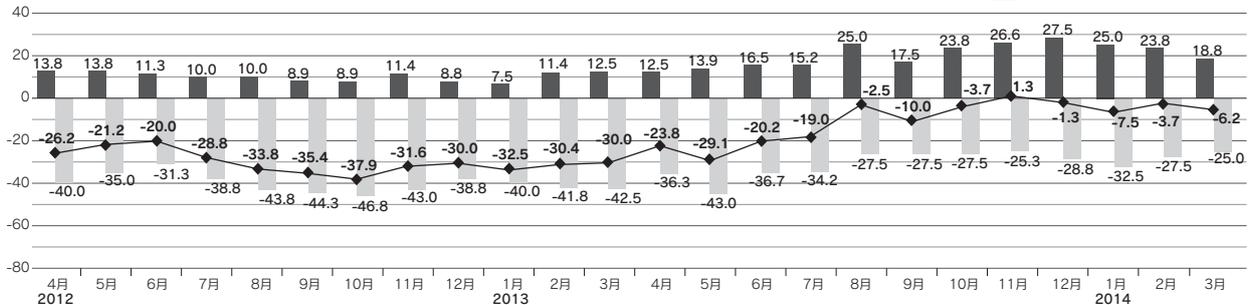
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☔	☁	☁	☁	☔	☁
非製造業	☁	☁	☁	☔	☔	☁



【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合〔前年同月比〕

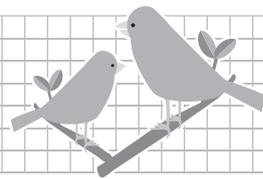


業界の声

- 食料品 (清酒製造)** 3月の清酒出荷量は、1,480,869ℓと前年同月比96.4%であった。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比123.9%、純米酒が104.6%、本醸造酒が95.3%、レギュラー酒が91.4%で、吟醸酒が好調に推移している。
- 繊維製品** 紳士服は、消費税増税前の駆け込み需要による反動が懸念される。一方、婦人服は受注量が増えて多忙になっており、今後、良品を納めるなどして前向きに取り組んでいきたい。
- 木材・木製品 (一般製材)** 消費税増税前の駆け込み需要と被災地関連の需要が重なったせいか、製品の注文に対応できない状況となっている。原木の不足により平成25年10月から価格が上昇していたが、平成26年1月～3月にかけて供給量が増加したため、原木価格は安定的に推移している。
- 木材・木製品 (合板)** 国内合板生産の操業はフル生産状態が継続しており、メーカー在庫並びに流通在庫の減少が見込まれる。
- 印刷** 消費税増税前の駆け込み需要並びに年度末の需要期にあり、先月よりは仕入、売上ともに増加しているが、昨年夏以降の電気料金の値上げが大きな負担増となっている。消費税引き上げ後の買い控えがどのように影響するのか分からない等、総体的には回復しているという実感はない。
(中央地区)
- 窯業・土石 (生コンクリート)** 3月の出荷数量は前年同月比100.6%、4月～3月の累計で801,235m³(前年比107.5%)となり、平成21年度以来の800,000m³台に達した。全国的に原材料である骨材の需給がひっ迫しており価格上昇が続いている。
- 鉄鋼・金属 (機械金属)** 仕事量が前年同月比で大幅増加となっており、各社とも残業により対処している。
- 鉄鋼・金属 (鉄鋼)** 年度変更の時期の影響か、需要は少ない状況である。見積件数はそれなりの実績となっているが、増税後の影響がこの先どのように現れるかという不安要素がある。
- 一般機械** 受注面は、前年に比べると増加傾向にあるが、先行きは不透明である。収益面は、単価が厳しく依然として低調であり、取引については短納期物が多く、安定感が無い。

その他の製造業 (漆器)	記念品等の購入が増加する3月において、工芸館並びに組合の売上が上昇し、1年間の累計が昨年度を上回る結果となった。4月からの消費税増税に関しては、漆器は駆け込み需要で購入する品物ではないため、変化は見られないと予測している。
卸売(商業卸)	仕入単価の上昇に歯止めがかかっていない状況にある。3月に入り、消費税増税前の駆け込み需要が顕著で売上は前年と比べ増加している。しかし、その反動に懸念する企業の声が多い。
小売 (自動車販売)	3月の新車販売台数は、登録自動車が4,652台(前年同月比114.8%)、軽自動車が4,188台(同128.4%)で、合計8,840台(同120.8%)であった。前月同様、消費税増税前の駆け込み需要により好調な売れ行きとなった。
小売 (石油販売)	ガソリンは1ℓあたり157円30銭で前月と変わらず、軽油は1ℓあたり141円50銭で前月比20銭の値下がり、配達灯油は18ℓあたり1,869円と前月比26円の値下がりとなり、全般的に値下がり傾向が強い。
小売 (家電販売)	前月同様に消費税増税前の駆け込み需要が伸張しており、前年比20～30%増の売上が見込まれているが、売れ筋商品が入荷不足で機会損失が発生している。
商店街	専門商品を取り扱う店が多いせいか、消費税増税前の駆け込み需要はなかった。しかし、市の空店舗対策補助事業を活用した新規出店が2店あり、当商店街にとって明るい話題となっている。 (大館市)
サービス (旅行)	国内旅行は、前年同月比107.2%、海外旅行は同111.0%と国内・海外とも好調に推移した。消費税増税に伴う影響を注視していきたい。
建設業 (一般建築)	景気の呼び水としての公共事業費の増加や、消費税増税に対応した工事が増加した。
建設業 (電気工事)	先月までは、消費税増税前の影響による駆け込み受注により工期に追われていたが、3月は受注件数が落ち着いてきている。
運輸業 (トラック)	例年にないほど荷動きが活発で車の台数が追いつかない状況であった。また、運賃については、3月で値上げされた運賃をそのまま4月に反映させていきたいと考えている。
その他の製造業 (砂利採取)	年度末を迎え、公共事業仕上げの関係で骨材の荷動きは活発であったが、例年並みの出荷量であった。

話題の広場



中央会事業より

グループ法人化促進事業を活用して創業補助金に採択 ～企業組合農藝舎～

本会では、法人化を検討しているグループ又は設立後間もない組合が抱える問題に対し、専門家を交えた支援を行うことで、スムーズな事業運営に繋げることを目的に、「グループ法人化促進事業」を平成25年度に実施しました。

企業組合農藝舎(佐々木三知夫理事長)では、県内ではほとんど流通していないジャンボにんにくの加工・販売事業を軌道に乗せることを目指しており、本事業を通じ、専門家による商品価格の設定や資金計画の策定を支援しました。

また、事業の成果の一つとして、本会が認定支援機関として専門家と連携したサポートを行った結果、国の創業補助金に採択され、今後の更なる事業展開が期待されています。

同組合では、今後は直売所の開設や、ジャンボにんにくに続く新たなオリジナル商品の生産・販路開拓を目指していくこととしています。



【専門家活用による支援の様子】



【ジャンボにんにくの加工品】